会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	第２回高松市下水道事業運営検討委員会
開催日時	令和６年８月６日（火）　午後１時３０分～午後３時
開催場所	高松市防災合同庁舎５階　５０１会議室
議　題	（１）　高松市下水道事業基本計画の取組状況（令和５年度実績）について （２）　令和５年度高松市下水道事業会計決算の概要について （３）　高松市下水道事業基本計画の中間見直しについて
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	－
出席委員	１１人 今岡委員、末永委員（副会長）、寺尾委員（会長）、鍋嶋委員、高橋委員、松浦委員、安部委員、藤原委員、山本委員、久保委員、土居委員
傍聴者	１人（定員５人）
担当課及び連絡先	都市整備局下水道部下水道経営課 ０８７－８３９－２７６５

会議経過及び会議結果

開会

会長挨拶

議題　（１）　高松市下水道事業基本計画の取組状況（令和５年度実績）について

事務局から説明【資料１】

（委　員）資料の表の見方を教えてほしい。例えば、２ページの目標Ⅰのそれぞれの指標に対する達成率は①98%、②100%、③100%となっているが、目標Ⅰ全体の達成率は80%となっている。

（事務局）目標Ⅰについては、５つの指標を設定しており、その５項目中４項目が目標値を達成しているため、指標全体の達成率を80%としている。

（委　員）目標を達成できていない指標の達成率を見ていくと、目標Ⅰ～Ⅲについては、達成率 100%を僅かに下回るだけだが、目標Ⅳについては、かなり達成率が低い。目標Ⅰ～Ⅳはどれも大事な目標であるが、目標Ⅳは、この事業の持続可能性に直接関わってくる部分なので、今後より一層重視して優先的に対策を進めていく必要があると考えられる。

（事務局）御指摘のとおり、目標Ⅳについては、次世代につなぐ事業運営ということで、目標Ⅰ～Ⅲそれぞれの指標に取り組みながら、当然ながら重視して、見直すべきところは見直していきたい。

（委　員）目標Ⅳの達成できていない指標は全て、使用料単価に依存している指標であり、下水道使用料が安いから達成できていないようにみえる。また、処理に要するコストが上がったり、有収水量が減っていたりすることで、目標達成率が低くなっているようにみえる。

（委　員）下水道事業は市民にとって非常に大事な事業で、特に採算管理が大事である。下水道使用料の改定により、使用料単価を上げることは簡単かもしれないが、市民生活に直結するので、できるだけ避けて、効率的に設備投資を行ったり、最新技術の AI や DX 等を上手く活用したりすることで、経費を抑えることを考える必要がある。

議題　（２）　高松市下水道事業会計令和５年度決算の概要について

事務局から説明【資料２】

（委　員）４ページの収益的収支について、令和５年度の各区分の合計値が違うと思うが、説明をお願いしたい。

（事務局）単位を 100 万円で四捨五入した関係で誤差が生じている。

（委　員）３ページの説明の中で、令和５年度の汚水処理量は、雨が多かったから増えたとあったが、汚水処理量には雨水は含まれない認識だった。

（事務局）市内中心部は、雨水と汚水が一緒に流れる合流管が多く布設されており、計算において雨水の量を完全に排除しきれないため、影響が出てくる。

（委　員）合流管に雨水を含んでいることは分かる。有収率が高いほど使用料徴収の対象とすることができない不明水が少ないことになる。不明水の削減や合流式から分流式への転換等について、何か考えはあるか。

（事務局）不明水の一因となる管きょの老朽化対策を優先的に進めている状況であり、今のところ、合流管を分離する予定はない。雨水は別途バイパス管を整備している状況である。

（委　員）不明水に井戸水が入っているのではないか。井戸水を使った場合も、その分の下水道使用料を徴収しないと不公平だと思う。

（事務局）有収水量は、水道使用量に加えて、井戸水の使用量も含んでいる。井戸水を使用し、公共下水道へ放流する場合、大きい事業所であれば使用水量が確認できるメーターの設置や、一般家庭であれば使用人数や用途により使用水量が決まっており、水道の使用水量に上乗せして、下水道使用料を徴収させていただいている。

議題　（３）　高松市下水道事業基本計画の中間見直しについて

事務局から説明【資料３】

（委　員）資料２の 11 ページについて、高松市の老朽化率が 24.46%と非常に高い。老朽化に

伴い設備を更新するということは、減価償却費が増えていく。老朽化対策、設備投資を重点的に検討して、今後の計画を立てていただきたい。

（委　員）資料１の２ページの指標②下水道人口普及率について、指標の説明に「本市の人口に対し」とあるが、下水道事業計画区域外の人口も入っていると思う。今後、計画区域を広げないという前提のもとで、市全域の人口を入れることは適切なのか。

（事務局）下水道人口普及率の算出は、全国一律の基準として、下水道が利用できる人口を行政人口で除した値と決まっている。

（委　員）資料１の４ページの指標③雨水流出抑制量について、実際に流出されるであろう雨水の量が計算できているのか。また、出前講座をすることで、雨水の流出抑制量増加につながるものなのか。

（事務局）雨水の流出抑制ということで、下水道区域が拡大している時には、浄化槽が雨水貯留施設に転用されていたが、現在は、小規模な雨水タンクの設置がほとんどで、抑制量が減少している。広報誌や SNS を活用した啓発に加え、イベントや出前講座等で、浄化槽転用や雨水タンクの設置について、周知活動も行っているが、増加はなかなか難しい状況である。

（委　員）資料３の４ページにあるように、持続可能な事業運営を行うためには、減価償却費が大きく影響している。長年にわたる整備の結果、積み上がった減価償却費や企業債残高について、令和５年度決算値では減少しているが、直ちに減らすのは難しいと認識している。それらを抑えることによって、下水道使用料を引き上げない、市民にもできるだけ負担をかけないようにするのが大切なのは理解している。ただ、一方で、資料２の７ページの一般会計繰入金について、令和５年度決算では約 38 億円を繰り入れている。繰入れには基準内と基準外があり、汚水に関する経費は下水道使用料によって賄うことが基本であるが、一部、川をきれいにするといった公共的な部分には一般会計からの繰入れを充てている。また、雨水に関する経費は下水道使用者のみに限らず、全ての人々に関係することから、一般会計から繰り入れているところが大きい。よって、汚水に対する経費の問題と、雨水に対する経費の問題を、もう少し明確化して議論すべきである。

（委　員）確かに企業債は減っているが、老朽化で設備投資をしていないからかもしれない。逆に、今後、設備投資が大きくなり、企業債が増えてしまう可能性がある。設備投資は効率的に進めていかないと、企業債が減っても負担を先送りにしているだけになりかねない。

（委　員）資料２の 11 ページの高松市の使用料単価について、全国中核市平均と比べるとさほど変わりないが、中四国中核市平均と比べると、低い印象を持った。使用料を上げることは、なかなか難しいと思うが、老朽化対策にも財源は必要である。

（会　長）使用料単価について、全国中核市平均と中四国中核市平均とで、状況が違うようだが、何か背景となっているものがあるのか。

（副会長）状況等の違いについて、原因を分析する必要がある。

（副会長）汚泥の再利用について、セメントの代替材料としても活用されているという話があった。高松市はゼロカーボンシティを謳っているので、そのセメントが実際にどれ

くらい利用されているのか、そして、それを利用することによって削減できる CO2 の量を数値化することで、ゼロカーボンシティへの貢献、更には、カーボンニュートラル、カーボンクレジットへの展開が、下水道事業の中から見出していけるのではないか。

（委　員）冒頭の説明で使用された「たかまつの下水道」パンフレットがとても分かりやすい。一般の方や子どもにとっても分かりやすいと思うので、機会があれば、市民に配布してほしい。

（会　長）これから議論を深めていくフェーズに入っていく中で、次回の第３回委員会では見直し案が出るということで、意見のキャッチボールをする機会はあるか。

（事務局）次回の第３回委員会は、素案の提示ということでボリュームが多くなる見込みなので、概要版を先に示させていただき、意見をいただくシートを事前にお送りする予定である。

閉会

以上